

# 2023年5月期 第3四半期 決算補足説明資料

---

2023年4月10日

ダイコー通産株式会社

1

# 2023年5月期 第3四半期決算概要

---

## 売上高・各利益ともに、底堅く推移しております

案件獲得に向けた取り組みを推進するとともに、顧客ニーズへの的確な対応による積極的な営業活動を展開いたしました。

(単位：百万円、下段は構成比)

|            | 2022年5月期<br>第3四半期実績 | 2023年5月期         |                   |                  |       | (参考) 2022年5月期    |       |
|------------|---------------------|------------------|-------------------|------------------|-------|------------------|-------|
|            |                     | 第3四半期実績          | 前期比<br>増減率        | 通期計画             | 進捗率   | 通期実績             | 進捗率   |
| 売上高        | 13,231              | 12,757           | △3.6%             | 18,200           | 70.1% | 17,581           | 75.3% |
| 売上総利益      | 2,067<br>(15.6%)    | 1,960<br>(15.4%) | △5.2%<br>(△0.2%)  | 2,834<br>(15.6%) | 69.2% | 2,736<br>(15.6%) | 75.5% |
| 営業利益       | 838<br>(6.3%)       | 670<br>(5.3%)    | △20.0%<br>(△1.0%) | 1,072<br>(5.9%)  | 62.5% | 1,056<br>(6.0%)  | 79.4% |
| 経常利益       | 843<br>(6.4%)       | 675<br>(5.3%)    | △19.9%<br>(△1.1%) | 1,080<br>(5.9%)  | 62.5% | 1,057<br>(6.0%)  | 79.7% |
| 四半期(当期)純利益 | 564<br>(4.3%)       | 453<br>(3.6%)    | △19.6%<br>(△0.7%) | 714<br>(3.9%)    | 63.5% | 703<br>(4.0%)    | 80.1% |

※2023年5月期進捗率は、2023年5月期業績予想に対するものです。

- 売上高は、FTTH案件(光伝送路案件含む)の安定的な受注獲得や、大型のメガソーラー案件(電力設備)の受注等により、堅調に推移しておりますが、案件の一部が第4四半期へ期ずれしたことが影響し、前年同期の実績を下回る結果となりました。
- 売上総利益の減少は、売上の期ずれ影響や仕入価格が以前より上昇傾向にあるなど複合的な要因が挙げられますが、通期を通しては、比較的収益性の高い日常売上の増加と価格転嫁を見込んでいるため、売上総利益率は平準化すると計画しています。
- 営業利益は、売上高・売上総利益の減少が影響しましたが、支出の抑制等に努め、計画通りに推移しております。なお、販売費及び一般管理費につきましては、特記すべき特別な支出はございません。

# 日常売上・案件売上別の売上及び売上総利益の構成比詳細

## 日常・案件別

- ・案件売上
- ・案件内、大型案件
- ・日常売上

## 案件売上区分

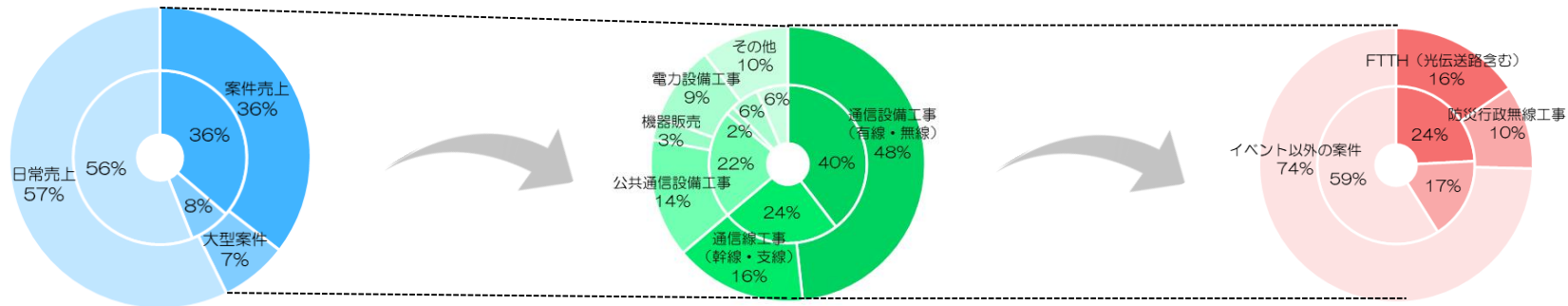
- ・通信設備工事
- ・通信線工事
- ・公共通信設備工事
- ・機器販売
- ・電力設備工事・その他

## イベント案件区分

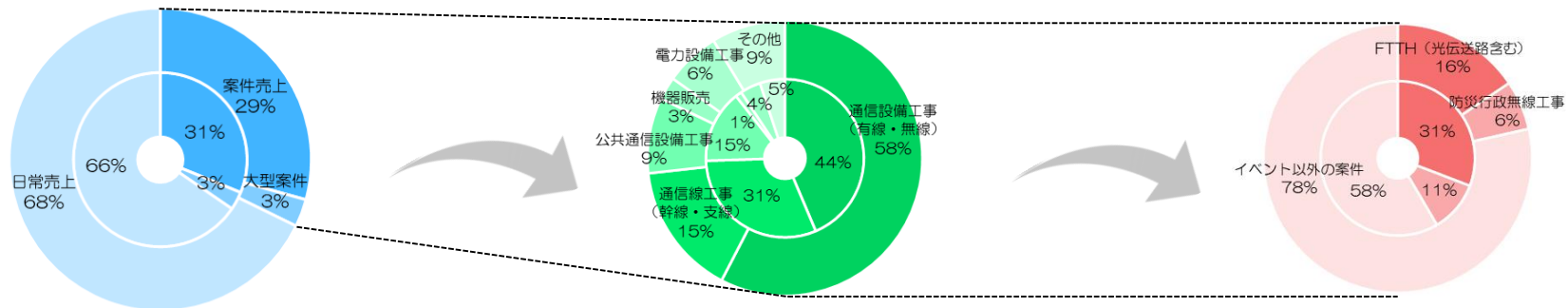
- ・FTTH（光伝送路含む）
- ・防災行政無線工事
- ・イベント以外の案件

### ■ 売上構成比

円グラフ 内側：2022年5月期3Q累計  
外側：2023年5月期3Q累計



### ■ 売上総利益構成比

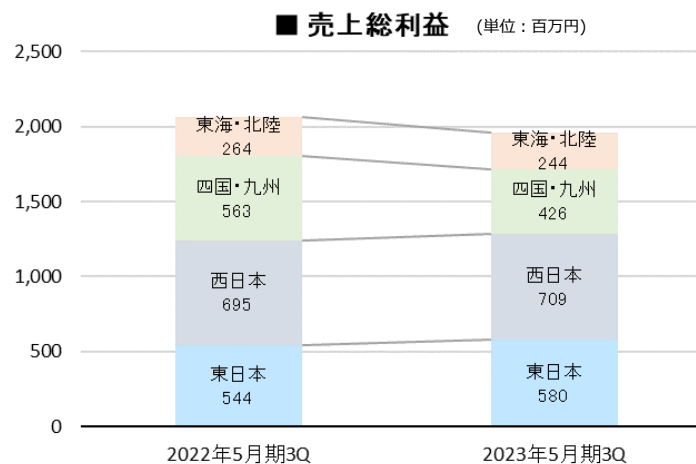
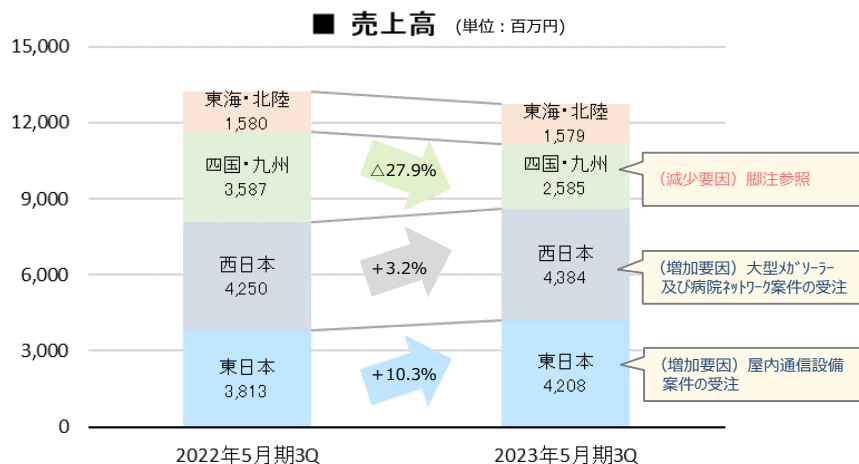


(注) 日常売上・・・日々受注する小口の売上。  
案件売上・・・一定量まとまった受注による売上で100万円以上のもの。1億円以上のものは大型案件(特需)。

# 事業区分別、商品区分別の売上高及び売上総利益

## 事業区分別 (エリア別)

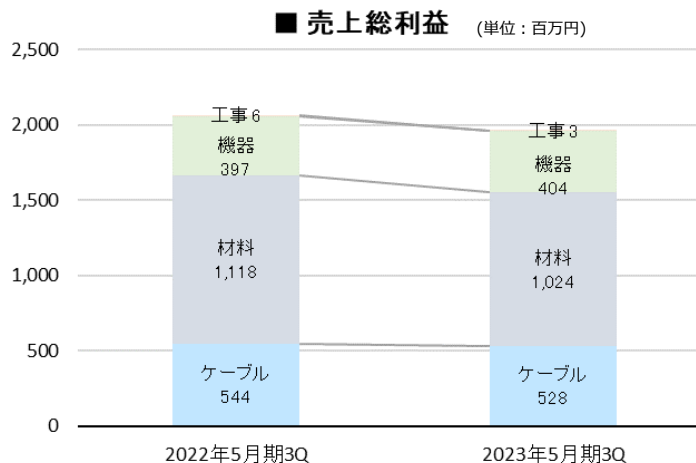
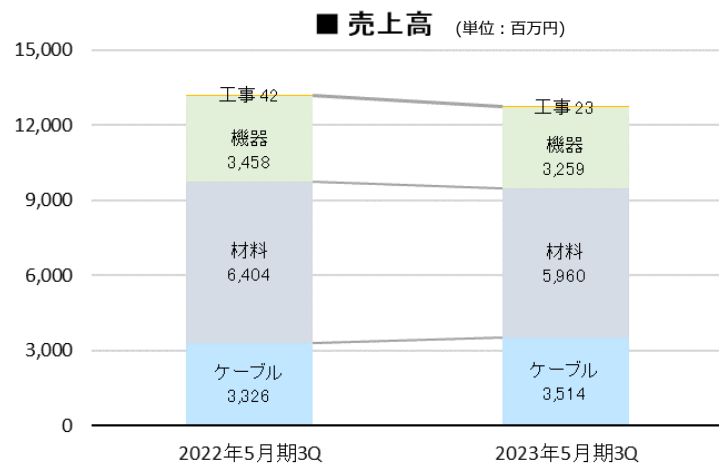
・東日本ブロック ・西日本ブロック ・四国・九州ブロック ・東海・北陸ブロック



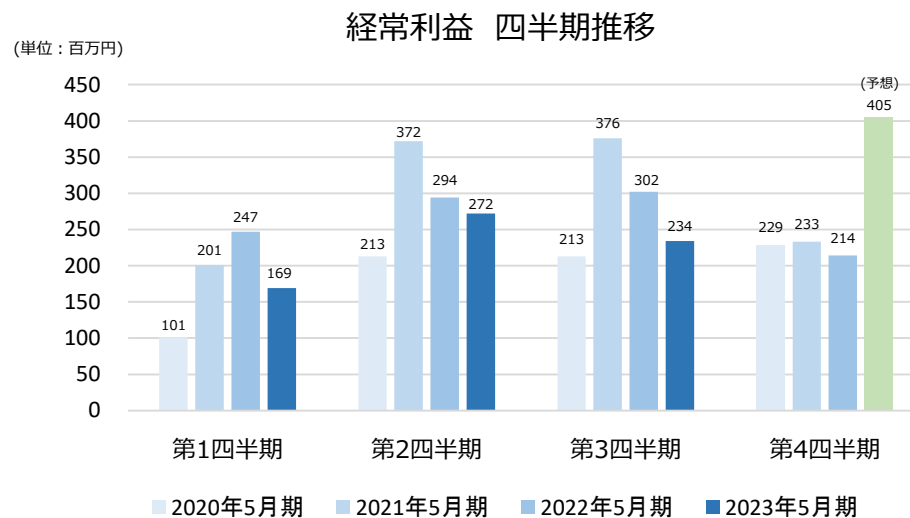
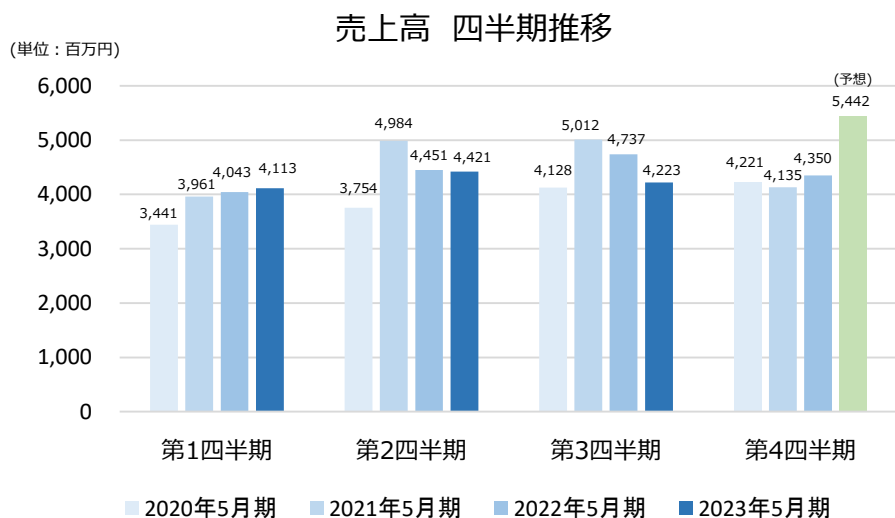
■ 四国・九州ブロックの前年同四半期実績は、FTTH案件の前倒し受注、防災行政無線案件の受注が多数ありましたが、当年四半期は、同案件を第4四半期に予定していることから低調に推移しております。

## 商品区分別

・ケーブル ・材料 ・機器 ・工事



## 第3四半期の進捗率は、第4四半期への期ずれ影響を受けています



| 売上高進捗率   | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 2020年5月期 | 22.1% | 24.1% | 26.6% | 27.2% |
| 2021年5月期 | 21.9% | 27.5% | 27.7% | 22.9% |
| 2022年5月期 | 23.0% | 25.3% | 26.9% | 24.8% |
| 2023年5月期 | 22.6% | 24.3% | 23.2% | —     |

| 経常利益進捗率  | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 2020年5月期 | 13.5% | 28.1% | 28.1% | 30.3% |
| 2021年5月期 | 17.0% | 31.4% | 31.8% | 19.8% |
| 2022年5月期 | 23.4% | 27.8% | 28.6% | 20.2% |
| 2023年5月期 | 15.6% | 25.2% | 21.7% | —     |

※2023年5月期進捗率は、2023年5月期予算に対するものです。

### 例年の傾向 その要因

- ▶ 例年、売上高・経常利益ともに上半期の進捗率が小幅ながら低くなる傾向を有しておりますが、2021年5月期上半期は、特需であるG I G Aスクール構想案件 売上の影響を、2022年5月期上半期は、収益性の高い日常売上が堅調に推移したことにより、進捗率が相対的に高い水準にあります。
- ▶ 例年、下半期の進捗につきましては、第2四半期後半(11月頃)から第4四半期前半(3月頃)にかけて売上高が増加する傾向にあります。主な要因といたしましては、当社の主要顧客である通信工事等の施工業者が、年度末である3月竣工の公共工事や民需工事を行うためであります。

■ 例年に比べて第3四半期の売上高の進捗率が低くなったものの、期ずれ影響により第4四半期に売上が集中すると見込んでいるため、**通期では概ね計画通りの着地になると予想しております。**経常利益も売上高の増加と売上総利益率の平準化により、概ね計画通りに推移すると見込んでおります。

2

## 2023年5月期業績予想

---

## 2023年5月期決算は、増収増益を見込んでいます

(注) 直近に公表しております業績予想からの修正はありません。

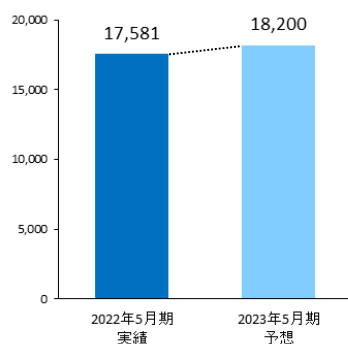
顧客基盤、取扱い商品数の拡充に加え、イベント需要の案件獲得に取り組んでまいります。FTTHや光伝送路拡張、防災行政無線のデジタル化、病院等のネットワーク設備などの案件向けケーブル・材料・機器の販売伸長を見込んでいます。

(単位：百万円、下段は構成比)

|       | 2022年5月期<br>(通期) 実績 | 2023年5月期<br>(通期) 予想 | 前期比 |      |
|-------|---------------------|---------------------|-----|------|
|       |                     |                     | 増減額 | 増減率  |
| 売上高   | 17,581              | 18,200              | 619 | 3.5% |
| 売上総利益 | 2,736<br>(15.6%)    | 2,834<br>(15.6%)    | 98  | 3.6% |
| 営業利益  | 1,056<br>(6.0%)     | 1,072<br>(5.9%)     | 16  | 1.6% |
| 経常利益  | 1,057<br>(6.0%)     | 1,080<br>(5.9%)     | 23  | 2.2% |
| 当期純利益 | 703<br>(4.0%)       | 714<br>(3.9%)       | 11  | 1.6% |

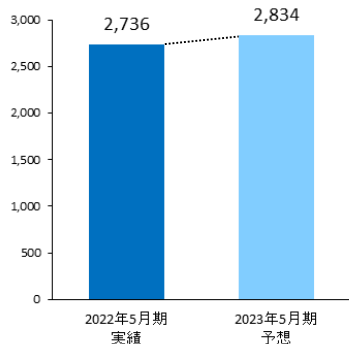
## ■ 売上高

(単位:百万円)



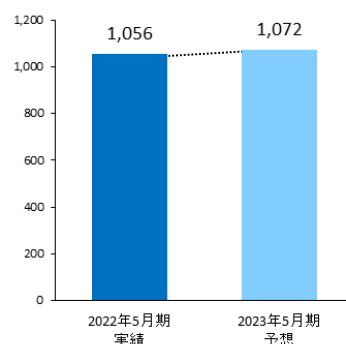
## ■ 売上総利益

(単位:百万円)



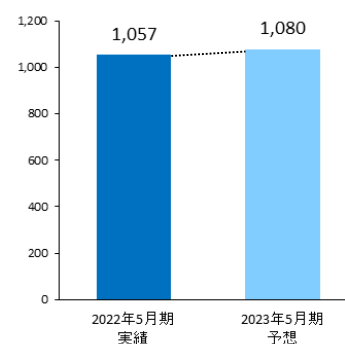
## ■ 営業利益

(単位:百万円)



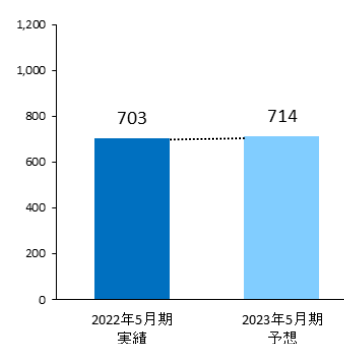
## ■ 経常利益

(単位:百万円)



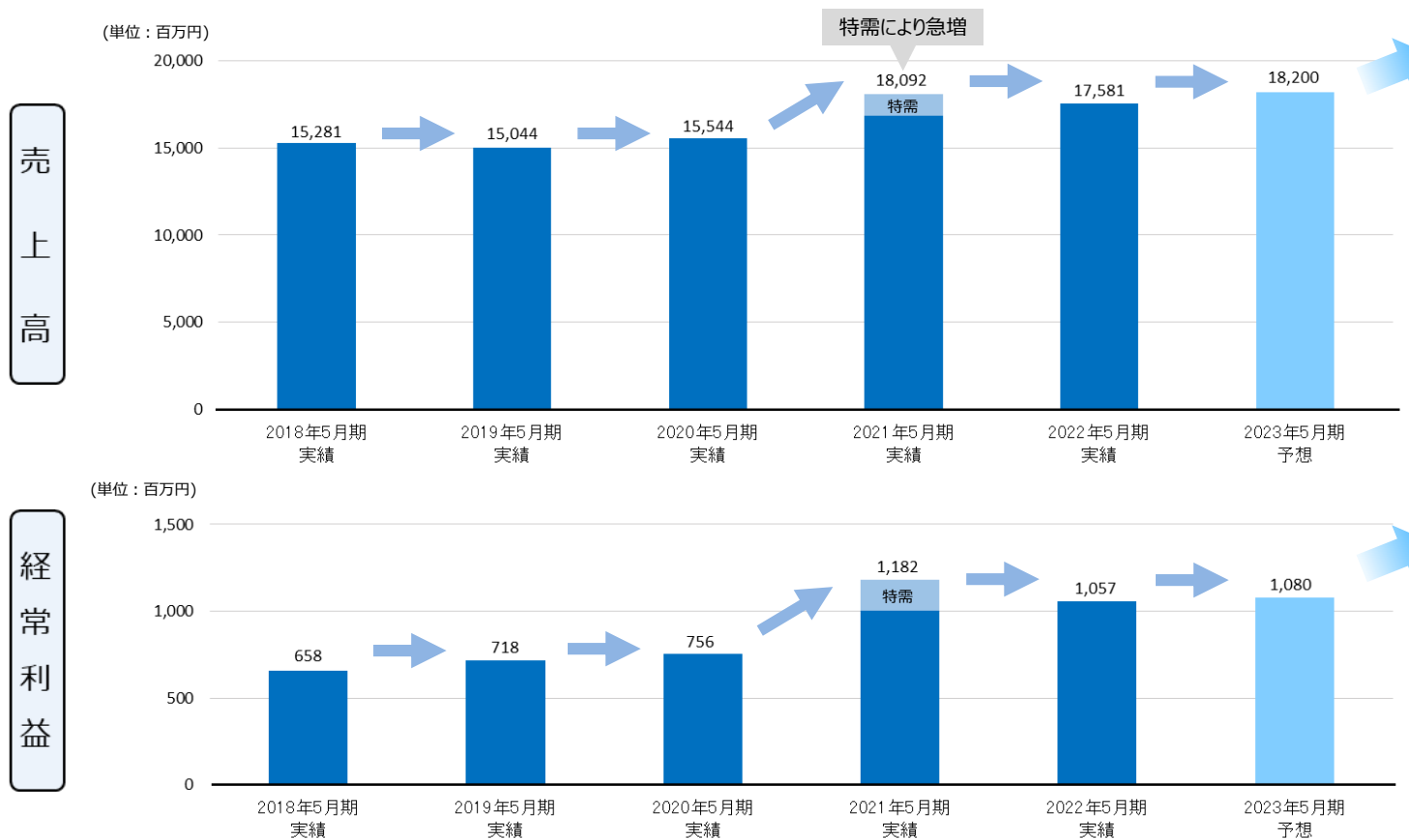
## ■ 当期純利益

(単位:百万円)





売上高・経常利益ともに、安定的に推移しております



Point 01 売上高・経常利益は、外部環境の変化の中、外的要因の影響を最小限に抑え、**安定的に推移**しております。

Point 02 2021年5月期は、G I G Aスクール構想案件の特需により急増しておりますが、2022年5月期以降も特需要因のあった年度とほぼ同等水準の売上となっており、**経年で見るとトップラインは伸長傾向**にあります。

### 3 トピックス

---

## トピックス①

## 外部環境による変化と、当社取り組み

## ● 新型コロナウイルス感染症による影響

## 勤務状況

感染回避行動に努めながら、通常通りの勤務形態にて業務を行っております。

## ● 銅相場の状況

## 相場状況

銅相場は、世界最大の銅消費国である中国の需要動向を意識しながら高い水準での一進一退の推移となっております。米金融政策や中国のゼロコロナ政策を巡る不透明感が後退したことにより、価格の平準化が期待されますが、今後も相場の先行きは読みにくい状態が続きそうです。

## 取り組み

仕入価格の変動は、可能な範囲内で販売価格に価格転嫁（仕入値が変われば、売値を連動して変える方針）しております。

## ● 為替市場の状況

## 市場状況

為替市場は、2022年11月以降に急速なドル安・円高基調で進み、FRBも金融引き締めスタンスを維持していましたが、米銀の相次ぐ破綻に端を発した金融システム不安により、FRBの引き締め継続は困難との見方も台頭するなど、米政策金利見通しに振り回される展開が続きました。

## 取り組み

一部商品の海外仕入れはありますが、為替レートの変動による原価の増減は、可能な範囲で販売価格に価格転嫁する方針です。

## 影響

業績に大きな影響を与える問題は発生していません。



今後の感染拡大や市場の状況等によっては、業績へ影響を与える可能性があります。

## 営業・物流拠点の新築・移転計画の進捗

## CHECK! 東京営業所 兼 物流センター 建設計画の決定

新築移転に伴う建設用地の取得を終え、この度、建設計画の概要が決定いたしました。東京の立地を最大限に生かし、業務効率の向上、物流網の強化、営業基盤の拡大に努めてまいります。今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 所在地      | 東京都江戸川区臨海町三丁目6番8               |
| 設備投資内容   | 事務所兼倉庫                         |
| 建設着工予定時期 | 2023年6月（予定）                    |
| 竣工予定時期   | 2024年3月（予定）                    |
| 敷地面積     | 1,300.04 m <sup>2</sup> （自社所有） |
| 建物面積     | 約2,200 m <sup>2</sup> （予定）     |
| 投資予定額    | 約7億円（予定）                       |
| 資金計画     | 自己資金及び借入金等（詳細未定）               |
| 現況       | 既存建物の撤去を終え、建設着工に向けて準備中         |

（注）2023年5月期の業績に与える影響は軽微なもの見込んでおります。

## その他の営業所 中長期的な成長戦略

その他の営業所についても、必要に応じてキャパシティの増加を図るほか、現在空白地帯となっているエリア開拓も含め、引き続き、営業体制・物流網の強化を推進してまいります。



## イベント需要の案件獲得に向けた取り組み

## ■ 通信インフラ基盤の整備

総務省は「条件不利地域のエリア整備（基地局整備）」、「5Gなど高度化サービスの普及展開」、「鉄道／道路トンネルの電波遮へい対策」、「光ファイバ整備」を、一体的かつ効果的に実施するための目標を掲げています。

総務省 ICT インフラ地域展開マスタープラン  
高速通信網 5G や光ファイバの全国展開を推進



2023年度末を視野に入れた  
ICTインフラのロードマップ策定

## イベント需要の案件獲得 ①

DAIKO  
イベント案件

販売が見込まれる商品  
● LAN材料  
● 無線通信機器 等

## ■ 緊急防災・減災事業

防災行政無線のデジタル化の移行完了後においても、未整備地域は残るほか、早期にデジタル移行した地域ではシステム更新が順次発生しますので、需要は終息することなく業績に寄与していくものと見込んでいます。

総務省地方債活用のあらましの抜粋  
自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策の推進



防災無線を含めた活用事業の需要  
防災行政無線デジタル化



緊急防災・減災事業債の事業期間  
2025年度まで延長

## イベント需要の案件獲得 ②

DAIKO  
イベント案件

販売が見込まれる商品  
● 架空幹線材料  
● 周辺機器類 等

# 案件獲得に向けた中長期的な取り組み



## デジタル田園都市国家構想

DIGIDEN

「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」という構想

### ▶ 構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備

### ▶ 重要業績評価指標（KPI）

**CHECK!** デジタルインフラの整備

総務省「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」に基づき、光ファイバ、5G等の通信インフラの整備を地方ニーズに即してスピード感をもって推進

- ✓ **光ファイバ**  
不採算地域や条件不利地域等を含め、全国的な光ファイバ網の整備を推進
- ✓ **データセンター／海底ケーブル等**  
地方データセンター拠点や日本周回ケーブルの整備、陸揚局の地方分散等を推進
- ✓ **5G**  
新たな周波数割当て、基地局開設の責務の創設など5G網の整備を推進
- ✓ **Beyond 5G**  
通信インフラの超高速化・省電力化等を実現する技術の研究開発を加速

#### KPI 01

光ファイバの世帯カバー率について、  
**2027年度末**までに世帯カバー率  
**99.9%**とすることを旨す。



#### KPI 03

全国各地で十数か所の  
**地方データセンター拠点**を  
**5年程度**で整備する。



#### KPI 02

5Gの人口カバー率について、  
**2023年度末**に**全国95%**、  
**2025年度末**までに**全国97%**、  
**2030年度末**までに**全国99%**、  
とすることを旨す。



#### KPI 04

日本を周回する  
**海底ケーブル**  
(デジタル田園都市スーパーハイウェイ)を  
**2025年度末**までに**完成**させる。

出所：内閣官房「デジタル田園都市国家構想ホームページ」



### 中長期的な取り組み

#### 光伝送路敷設

通信の大容量化、高速化に伴い、既設光伝送路の増強・張替の需要増大。

- ・光ケーブル
- ・支線材料
- ・装柱金物 等

#### 基地局増設

移動体通信の基地局の増設は、都市部より進み地方へ展開され、ピークを過ぎる  
2023年度以降も1.5兆円規模で推移する見通し。

- ・電源ケーブル
- ・非常電源設備
- ・配管材 等

#### ローカル5G

地域や多様な業界のニーズに応じて、企業や自治体等が主体となって構築する  
5Gネットワーク。実装は2025年度以降となる見通し。

- ・LAN材料
- ・無線通信機器 等

デジタル田園都市国家構想の実現のためには光ファイバの整備や5Gの整備など、インフラ環境の構築が必要であり、必然的に当社ビジネスと密接な関係にあります。

# 持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向けた取り組み



当社は、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向けて、サステナビリティ基本方針を策定し、取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定いたしました。

## ▶ 基本的な考え方

私たちは、企業理念「企業は人なりの考え方に基づき、社員とその家族、株主及び関係取引先に対し最大限の利益を供給する」のもと、持続可能な社会づくりに貢献すべく、ESGを重視した経営に取り組むとともに、SDGsの目標達成も目指して事業活動を推進してまいります。

## ▶ 特定した重要課題（マテリアリティ）

| 重要課題<br>(マテリアリティ) | 当社の目指す方向性  | 貢献するSDGs   |
|-------------------|--|--|
| 地球環境への貢献          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全活動の推進</li> <li>・省資源、省エネ、廃棄物削減</li> </ul>     |      |
| 魅力ある職場の実現         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の健康増進</li> <li>・ワークライフバランスの推進</li> </ul>      |     |
| ガバナンスの強化          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレート・ガバナンスの徹底</li> <li>・情報セキュリティの徹底</li> </ul> |   |

4

株主還元

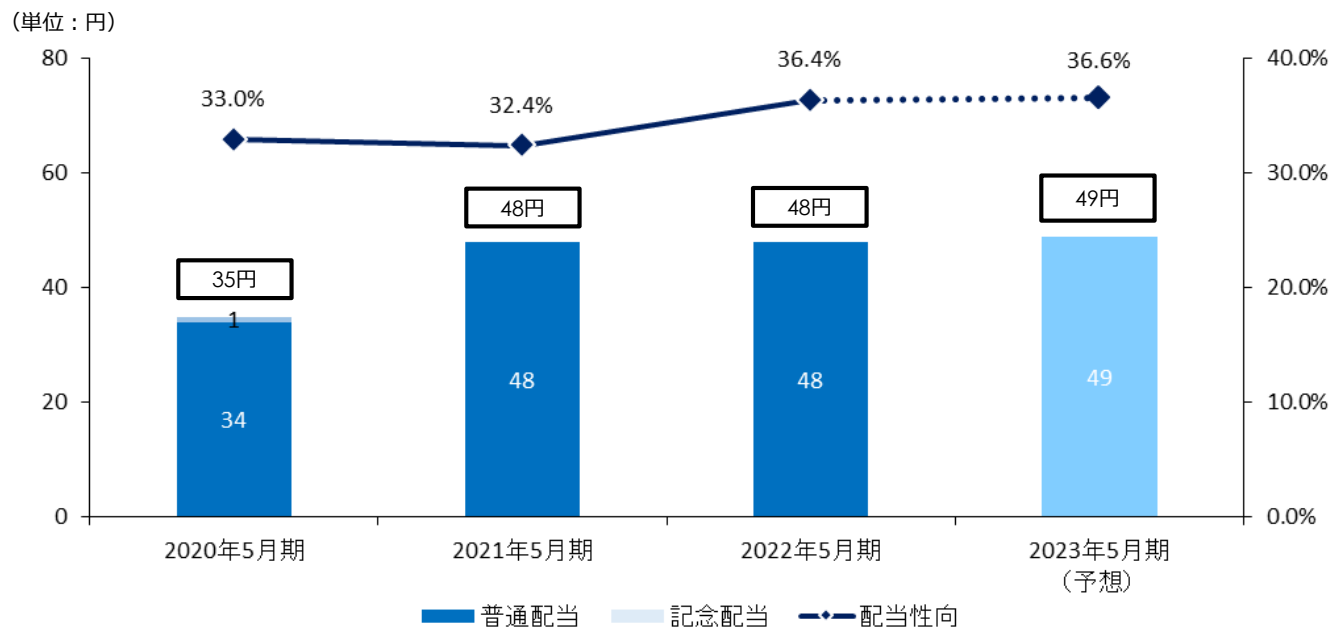
---



## 安定的かつ継続的な配当を実施していくことを配当の基本政策としております

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営施策としており、会社の業績に応じた適正な利益還元に加え、日常の事業運営に必要な運転資金と将来の事業展開のための内部留保を確保して健全な財務体質を維持しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施していくことを配当の基本政策としております。

|       | 2022年5月期<br>実績 | 2023年5月期<br>予想 | 増減    |
|-------|----------------|----------------|-------|
| 年間配当金 | 48円00銭         | 49円00銭         | 1円00銭 |
| 配当性向  | 36.4%          | 36.6%          | +0.2% |



# DAIKO

本資料は、当社の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社はこれらの情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。以上を踏まえ、投資に関するご決定は、ご自身のご判断で行うようお願いいたします。